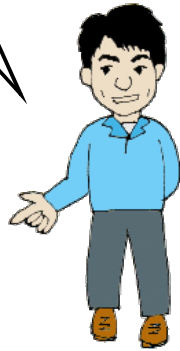


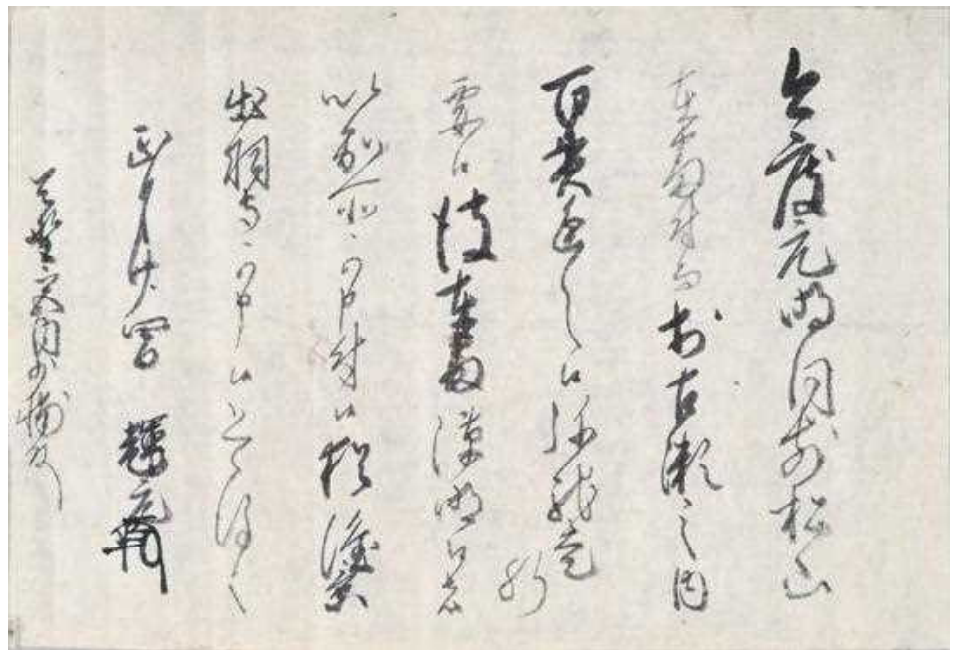
中世文書を読む (二)

毛利輝元の文書①



これは、戦国大名の毛利輝元が書いた手紙です。この展示では、この手紙を題材に、手紙を読み解く過程とその楽しさをみなさんと共有したいと思えます。番号順(①〜⑬)に見ていってね。

①



くずし字じゃあ、何が書いてあるかわからんよ。どう読むん？



②

今のことばに直したら、このようになります。



【現代語訳】

今度、元明もとあきといっしよに松山さいばんに在番するに当たり、古瀬の内にひゃつかんおいて百貫の土地を与えます。しつかりと働いてください。松山の在番が終わったら、別の場所を与えます。なお隆景たかかげと出羽守でわのかみが申します。恐々謹言。

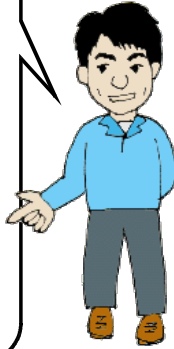
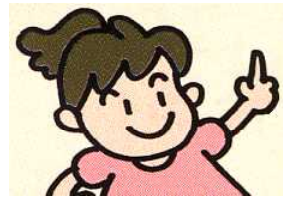
正月廿四日 輝元(花押)  
天野宮内少輔殿

ふーん。じゃあ、この手紙、いつ書かれたん？ 今回もまた、花押に注目するん？



輝元の花押

なるほど！ じゃあ、この手紙は元亀四年（一五七三）より後に書かれたんじゃね。



前はそうじゃったけど、今回は、登場する人名と地名から、時代を推理したいと思います。まず、毛利輝元は永祿八年（一五六五）に元服（成人）し、將軍足利義輝から一字をもらって輝元と名乗ります。

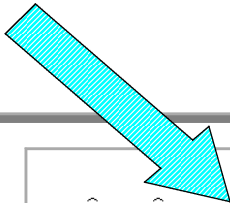
輝元の指示を伝達する「隆景・出羽守」とは、小早川隆景（輝元の叔父）・福原貞俊（毛利氏親類衆）です。福原貞俊が出羽守を名乗るのは元亀四年（一五七三）頃からです。

元亀四年（一五七三）頃からは、毛利氏は畿内を牛耳る織田信長と抗争します。

現在の岡山県・鳥取県辺りが、両勢力の狭間となっていました。

その際、小早川隆景と福原貞俊は、山陽方面の軍事指揮を担当します。

下に示した三吉隆亮・広尊親子の手紙によると、隆景・貞俊が「松山」の竹井宗左衛門尉・三村兵部丞らを味方に付けることに成功し、「天神丸・大松山」を奪ったことが知られ、三吉氏は「小松山」も近々落城すると予測しています。



○三吉隆亮・広尊親子の手紙

当方に寝返った衆のリストをお見せくださり、ご親切に。私のもとに留め置きます。

昨日廿一日付けのお手紙が今日の午後四時頃到来し、拝見しました。松山は、内密の調略が功を奏して、竹井宗左衛門尉・三村兵部丞・三村助左衛門尉などの者共が当方に寝返り、天神丸・大松山を攻略したとのこと、誠に御勝利おめでとうございます。小松山も程なく落城するでしょう。早々にお知らせくださり、ありがとうございます。「広尊も急いで出陣せよ」とのことは承知しました。よい報せをかさねがさねお待ちしています。恐々謹言。

五月廿二日

太郎 広尊（花押）  
安房守 隆亮（花押）

（小早川）隆景  
（福原）貞俊 参 御返報

このことから、「松山」は「天神丸・大松山・小松山」からなる松山城（今の岡山県高梁市）のことと推定されます。松山城は、備中国の国衆（有力な領主）であった三村氏の本拠でした。三村氏は織田氏に味方したため、松山城は毛利氏の攻撃を受け、天正三年（一五七五）六月頃落城します。三吉氏親子の手紙はこの直前のものです。



したがって、毛利輝元の手紙の「松山在番」とは、松山城に在城すること、「古瀬」とは今の高梁市の北部にある巨瀬のことと推定されます。そして、松山城に在番する元明とは、安芸国志和堀（東広島市志和町）を本拠とする国衆天野氏の当主でした。天野宮内少輔はその弟です。彼らが松山城に在番を命じられるのは、落城した松山城を毛利氏が接收し対織田戦争や地域支配の拠点として活用するためと思われます。織田方の三村氏が滅んでも、地域の人々がすぐに毛利氏の味方になったわけではありません。そのような中、松山城に在番するのは、大変危険な任務だったのです。



岡山県高梁市 松山城跡の位置

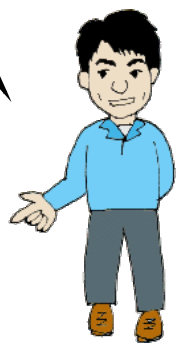
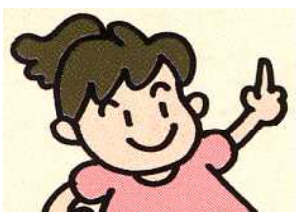


今回のお話に登場する地名などの位置



「古瀬」と書いて、「こせ」と読むんか！

というとは、この手紙は天正四年（一五七六）のものじゃね。



⑨ そのとおり！。そして、在番にはいろいろと経費がかかります。城の工事をしたり、食糧や武器を揃えたり…。そこで、天野宮内少輔は、在番に必要な経費に充てるため、松山城近くの「古瀬」の土地を与えられたのです。だから、在番が終わると、「古瀬」は返すこととなります。

⑩



でも、輝元は  
「松山の在番が終わったら、  
別の場所を与えます」  
と、言っとるよ。

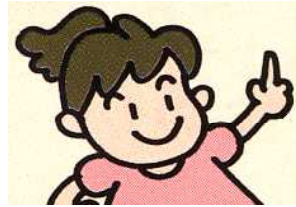
⑪



ほうなんよ！。  
つまり、輝元は、松山在番が終わっ  
たら「古瀬」は取り上げるけど、  
在番という「お勤め」（奉公）を果た  
したことに對しては、「ほうび」（恩  
賞）として「別の場所」を与える  
約束したのです。  
松山在番はそれほど危険な仕事だっ  
たので、事前に「ほうび」を約束し  
ないと、松山に在番させることがで  
きなかったんです。

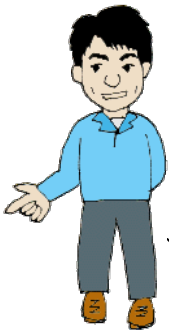
⑫

ふるん。  
じゃあ、松山在番の  
勤めが終わった後、  
ほうびをもらったん？。



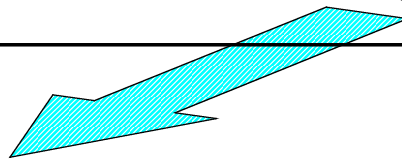
⑬

ほうびをもらったかどうかどう  
かは、資料がないんで、  
ようわからんのんよ。



⑭

実は、今回紹介した手紙の前日に  
輝元は天野宮内少輔に対して  
「備前・美作地域が平和になったら  
三百貫の土地を与えよう」  
と、約束していました。  
この時期、  
このような約束をして  
家臣を織田氏との戦争に  
動員していきます。  
逆に言えば、  
奉公の前に褒美を約束しないと、  
動員できなかつたんです。  
織田氏との合戦後、  
毛利氏の領国は  
戦前とさほど変わりませんでした。  
土地を家臣に与えようにも、  
与える土地がありません。  
したがって、  
このような約束は  
果たされなかつたようです。



○毛利輝元の手紙

【現代語訳】

松山在番で苦勞をかける。備前・  
美作地域が平和になったら、三百  
貫の土地を与えよう。しっかり働  
きなさい。恐々謹言。

正月廿三日

輝元御判

天野宮内少輔殿